

令和 6(2024)年度

名桜大学大学院国際文化研究科  
国際地域文化専攻（博士後期課程）

# 学 生 募 集 要 項

〔一 般 選 拔〕

〔社会人特別選抜〕

〔外国人留学生特別選抜〕



# 目 次

大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）	
アドミッション・ポリシー	1
令和6(2024)年度大学院国際文化研究科	
国際地域文化専攻（博士後期課程）入試日程	2
一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜学生募集要項	3
学費等納入金	16
授業科目の内容等	18
研究指導（博士論文指導）教員一覧	29
諸用紙綴り	添付
【出願資格認定申請書類】	
① 出願資格個別審査申請書（様式1）	② 出願理由書（様式2）
③ 経歴書（様式3）	④ 研究業績報告書（様式4）
⑤ 研究経過報告書（様式5）	
【出願書類等】	
① 研究計画書（様式6）	② 日本語力調査書（様式7）
③ 業績報告書（様式8）	④ 受験承諾書（様式9）
⑤ 相談申請書（様式10）	⑥ 入学志願票、受験票、振込依頼書
⑦ レターパックライト	⑧ 願書送付用封筒

---

## 個人情報の取扱について

- (1) 本学が入学選抜を通じて取得した個人情報は、次のとおり利用又は提供しますので、あらかじめご了承ください。
- ① 入学選抜、合格発表及び入学手続、入学前後の教育活動に係る業務で利用します。
- ② 入学手続者及びその保証人等の住所・氏名等につき、学生支援関係業務（健康診断、授業料減免措置、奨学金採用、就職支援、学生保険加入等）、教務関係業務（学籍管理、修学指導、成績管理等）、納付金関係業務（入学金、授業料徴収等）で利用します。
- (2) 出願書類・入学手続書類等の不備等がある場合、その訂正・補完を速やかに行っていただくため、本学を受験されること及び出願書類に不備等があることを、保証人等に通知する場合があります。
- (3) 本学が入学選抜を通じて取得した個人情報は、上記及び独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律9条に規定されている場合を除き、本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

---

入学選抜についての問い合わせ先  
〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

**名桜大学 教務部 入試・広報課**

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

---

# 建学の精神

名桜大学は、  
平和を愛し、自由を尊重し、  
人類の進歩と福祉に貢献する  
国際的教養人と専門家の育成を  
建学の精神とする。

大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）

アドミッション・ポリシー

国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）に入学を希望する人には以下のことを求めます。

1. 環太平洋の地域及び文化的課題に関して、課題解決に向けて理論的分析及び評価を行うための修士課程修了程度の専門的知識と研究能力を有していること。
2. 高度な外国語運用能力及び総合的判断力を有し、他者との対話を通して現代社会の課題を理解・分析した上で、研究成果を多様な方法で表現する能力を有すること。
3. 多様な文化と視点を理解・尊重し、自らの研究成果を明晰に表現する能力を有すること。

# 令和 6(2024)年度 大学院国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）入試日程

## 10月試験〔令和 6(2024)年 4 月入学〕

試験区分：一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜

願書受付期間	令和 5(2023)年 9 月 11 日(月)～9 月 15 日(金) (消印有効)
試験日	令和 5(2023)年 10 月 15 日(日) ※台風による予備日 令和 5(2023)年 10 月 22 日(日) ※追試験(詳細 12 ページ) 令和 5(2023)年 10 月 28 日(土)
試験会場	■本学試験場： 名桜大学
合格発表	令和 5(2023)年 11 月 1 日(水) 15:00
入学手続期間	令和 5(2023)年 11 月 2 日(木)～11 月 9 日(木)

- 10月試験で定員に満たない場合には、下記の日程で2月試験を実施します。  
実施については、12月初旬に名桜大学ウェブサイト以案内します。

## 2月試験〔令和 6(2024)年 4 月入学〕

試験区分：一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜

願書受付期間	令和 6(2024)年 1 月 15 日 (月) ～1 月 19 日(金) (消印有効)
試験日	令和 6(2024)年 2 月 3 日(土) ※追試験(詳細 12 ページ) 令和 6(2024)年 2 月 17 日(土)
試験会場	■本学試験場： 名桜大学
合格発表	令和 6(2024)年 2 月 28 日 (水) 15:00
入学手続期間	令和 6(2024)年 3 月 1 日 (金) ～3 月 8 日 (金)

令和6(2024)年度 10月試験・2月試験  
 名桜大学大学院国際文化研究科  
 国際地域文化専攻（博士後期課程）  
 一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜 学生募集要項

1. 募集人員

専攻	種別	入学定員	募集人員
国際地域文化専攻 (博士後期課程)	一般選抜 社会人特別選抜 外国人留学生特別選抜	2人	2人

※入学定員は、一般選抜、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の合計数。

2. 出願資格

【一般選抜】

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者若しくは令和6(2024)年3月までに学位を授与される見込みの者（1年次修了者も含む）
- (2) 外国において、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者若しくは、令和6(2024)年3月までに学位を授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職単位に相当する学位を授与された者、若しくは令和6(2024)年3月までに学位を授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、若しくは令和6(2024)年3月までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学（以下「国際連合大学」という。）の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は令和6(2024)年3月までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、上記出願資格（4）の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）
  - 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
  - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を、我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本研究科が当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
- (8) 本研究科において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達した者又は令和6(2024)年3月31日までに24歳に達する者

**【社会人特別選抜】**

一般選抜に示す出願条件のいずれかの資格を有する者で、本博士後期課程入学までに大学卒業後又は学士の学位取得後4年以上、又は大学院修了後若しくは修士の学位取得後2年以上の社会的経験を有する者とし、有職者に限らない。

**【外国人留学生特別選抜】**

一般選抜に示す出願条件のいずれかの資格を有する者で、日本国籍を有しない者

**3. 出願資格の認定**

出願資格(6)～(8)※に該当する者は、出願資格の事前審査を行うので、出願に先立って、下表のとおり必要書類を14ページ記載の出願問い合わせ先へ提出し、出願資格の認定を受けた後、出願してください。※社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜の志願者含む

試験区分	出願資格認定申請期間 ※	出願資格認定結果
10月 試験	令和5(2023)年 7月24日(月)～8月4日(金)(必着)	令和5(2023)年 8月18日(金)
2月 試験	令和5(2023)年 11月15日(水)～11月30日(木)(必着)	令和5(2023)年 12月22日(金)

**(1)提出書類**

1	出願資格個別審査申請書(本学所定の用紙を使用)様式1
2	出願理由書(本学所定の用紙を使用)様式2
3	経歴書(本学所定の用紙を使用)様式3
4	最終学校の成績証明書
5	最終学校の卒業(修了)証明書又は在籍証明書
6	研究業績報告書 様式4(本学所定の用紙に、著書、学術論文、研究報告書、卒業論文等の業績の概要をまとめたもの。原著、論文抜刷又はそのコピーを添付すること。)
7	研究経過報告書 様式5(本学所定の用紙に、学校等卒業<修了>後の調査研究状況を詳細に記入したもの。)
8	返信用封筒 定形封筒 23.5cm×12cmに切手(簡易書留・速達 694円)を貼付し、住所・氏名を記入してください。

**(2)認定結果の通知**

10月試験：令和5(2023)年8月18日(金)に郵送により通知します

2月試験：令和5(2023)年12月22日(金)に郵送により通知します

(3)出願資格に疑義のある者は、次項(4)に問い合わせてください。

**(4)出願資格認定申請書類提出先**

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又1220-1 TEL.0980-51-1056

※申請書類を持参する場合は、平日の午前9時から午後5時までの受付とします。

#### 4. 希望する研究指導教員との出願前相談

出願者は、出願前に、博士後期課程において研究指導を希望する教員（30 ページ）と入学後の研究計画等について相談すること。出願前相談の申込は、電話もしくはメールにより、入試・広報課で受け付けます。その際、氏名、連絡先、希望する研究指導教員、相談希望日(第3希望まで)を申し出てください。

##### 出願前相談期間

令和 5(2023)年 8 月 21 日(月)～9 月 1 日(金)

令和 5(2023)年 12 月 14 日(木)～令和 6(2024)年 1 月 5 日(金)

※土日祝日及び 12 月 29 日(金)～1 月 3 日(水)の年末年始休暇を除きます。

※相談日を大学から指定する場合があります。

相談申込先：名桜大学 教務部 入試・広報課 TEL: 0980-51-1056

E-mail: nyushisodan@meio-u.ac.jp

#### 5. 出願手続

##### (1) 出願書類

提出書類	一般選抜	社会人 特別選抜	外国人留学生 特別選抜
①入学志願票、受験票（所定用紙）	●	●	●
②成績証明書	●	●	●※4
③修了・卒業(見込)証明書又は資格認定証	●	●	●※4
④研究計画書（様式 6）※1	●	●	●
⑤修士論文又は研究論文の写し	●	●	●
⑥日本語力調査書（様式 7）			●※5
⑦合格通知等発送用宛名シール	●	●	●
⑧受験票送付用封筒レターパックライト ※2	●	●	●
⑨業績報告書（様式 8）		●	
⑩受験承諾書（様式 9）※3		●	
⑪在留カード又はパスポートの写し			●

※1 志望理由を含め研究テーマについて所定用紙に記入のこと。外国人留学生特別選抜出願者は、英語でも記入可能。

※2 レターパックライトを購入のうえ、「お届け先 (To)」に志願者の住所・氏名・郵便番号・電話番号を記入し、願書送付用封筒に同封してください。※ 折り曲げて同封してもかまいません。

※3 在職のまま、本学研究科に入学しようとする者のみ所定の用紙にて提出

※4 成績証明書及び修了・卒業(見込)証明書又は資格認定証は、日本語又は英語で出身校が発行したものを提出すること。

※5 日本語力調査書(様式 7)は、「独立行政法人国際交流基金と公益財団法人日本国際教育支援協会 (JEES) が共催する日本語能力試験 N1 以上の認定結果及び成績に関する証明書」又は「日本留学試験成績に関する証明書 (写し可)」をもって代えることができる。

(2) 入学検定料

30,000 円 本学所定の振込依頼書（入学志願票と一連になっています）で、次の取りまとめ銀行へ振り込んでください。

※10月試験：令和5(2023)年9月15日(金)まで 2月試験：令和6(2024)年1月19日(金)まで

○ 琉 球 銀 行	名 護 支 店	(普) 0820800
○ 沖 縄 銀 行	名 護 支 店	(普) 1642587
○ 沖 縄 海 邦 銀 行	やんばる支店	(普) 0059714
○ コ ザ 信 用 金 庫	名 護 支 店	(普) 0210579
○ 沖 縄 県 農 業 協 同 組 合	名 護 支 店	(普) 0030608

(3) 願書受付期間

10月試験：令和5(2023)年9月11日(月)～9月15日(金)(消印有効)

2月試験：令和6(2024)年1月15日(月)～1月19日(金)(消印有効)

(4) 出願書類提出先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1 TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

※出願書類を持参する場合は、平日の午前9時から午後5時までの受付とします。

(5) 出願上の諸注意

① 成績証明書、卒業（見込）証明書は厳封のまま提出すること

② 提出した出願書類は返還しません。また、納入した入学検定料は、次の場合を除き、理由の如何に関わらず返還できません。

ア：出願書類を提出しないまま願書受付期間が終了した場合

イ：書類不備等により出願書類が受理されなかった場合

ウ：誤って入学検定料を二重に支払った場合

※入学検定料返還に係る手続き（返還請求）については、電話にてお問合せください。

※入学検定料返還については、支払われた入学検定料のうち、振込手数料等を差し引いて、返還請求に基づき返還します。

③ 提出書類に虚偽の記載があった場合には、合格発表後においても合格及び入学許可を取り消すことがあります。

(6) 受験及び就学上の支援を要する者の相談

本研究科に入学を志願する者で、受験上特別な措置及び就学上特別な配慮を必要とする場合は、下記の期日までに本学入試・広報課へ連絡してください。

① 相談の時期

10月試験：令和5(2023)年7月24日(月)～8月4日(金)

2月試験：令和5(2023)年11月15日(水)～11月30日(木)

窓口受付取扱時間 平日の午前9:00～午後5:00（土曜日、日曜日及び祝日は除く）

② 相談の方法

別添様式による相談申請書（様式10）（健康診断書等添付）を提出することとし、必要な場合は本学において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者との面談等を行います。



## 6. 入学者選抜方法

入学者選抜は、一般選抜、社会人選抜及び外国人留学生特別選抜として、英語、小論文、面接及び出願書類の内容を総合的に判定して行います。

令和6(2024)年度入学者選抜にあたっては、沖縄本島居住者は本学試験場での受験を原則とし、沖縄本島外の居住者は本学試験場での受験またはオンラインでの受験のいずれかを選択することが可能です。

### (1) 一般選抜

試験科目等		配点	備考
書面審査		—	修士論文等について総合的に評価する（点数化しない）
筆記試験	外国語 1 科目	100 点	英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、琉球語など）から 1 科目を選択する 大学から郵送する辞書(書籍版)のみ使用してよい（試験後返送すること）。ただし、外国で受験する場合、別途対応する
口述試験		100 点	修士論文等及び研究計画書等の内容について個人面接を行う

### (2) 社会人特別選抜

試験科目等		配点	備考
書面審査		—	修士論文等について総合的に評価する（点数化しない）
筆記試験	外国語 1 科目	100 点	英語又は選択する地域の言語（ポルトガル語、スペイン語、中国語、韓国語、琉球語など）から 1 科目を選択する 大学から郵送する辞書(書籍版)のみ使用してよい（試験後返送すること）。ただし、外国で受験する場合、別途対応する
	小論文	100 点	選択する地域や研究分野に関する設問について、1000 字以上 1200 字以内で論じる
口述試験		100 点	修士論文等及び研究計画書等の内容について個人面接を行う

### (3) 外国人留学生特別選抜

試験科目等		配点	備考
書面審査		—	修士論文等及び日本語力調査書について総合的に評価する（点数化しない） ※原則として日本語能力試験 N1 程度
筆記試験	小論文	100 点	選択する地域や研究分野に関する設問について、1000 字以上 1200 字以内で論じる 大学から郵送する辞書(書籍版)のみ使用してよい（試験後返送すること）。ただし、外国で受験する場合、別途対応する ※日本語で行う
口述試験		100 点	修士論文等及び研究計画書等の内容について個人面接を行う ※日本語で行う

## 7. 使用するオンラインツール及びオンライン環境整備

オンライン試験では、ツールとして「Microsoft Teams（以下、「Teams」という）」のビデオ通話機能を利用します。

以下のとおり事前準備を行ってください。

なお、オンライン環境を整備するためにかかる費用（機器、インターネット環境等）については、受験者の負担となります。

### (1) インターネット通信環境

十分な通信速度を確保するため、光ファイバー回線などの高速、かつ有線のインターネット環境が理想的です。Wi-Fi（無線）やモバイル回線（携帯電話会社提供の回線）を使うこともできますが、通信速度は最低でも 8Mbps は必要で、20Mbps 以上あれば理想的です。

また、Teams では、音声・映像で 1 時間あたり 690～810MB の通信量が必要とされています。

### (2) インターネットに接続されたパソコン等の準備

オンライン試験は、インターネットに接続されたパソコンを使用して受験してもらいます。パソコン（デスクトップあるいはノート型）、ウェブカメラ、ヘッドセットをご準備ください。

・ウェブカメラ

PC 内蔵カメラやウェブカメラで対応できます。

・ヘッドセット（ヘッドホン・マイク）

PC 内蔵のスピーカー、マイクは、音質やハウリングの問題が生じる恐れがあるため、ヘッドセットやイヤホンマイクの使用を推奨します。

### (3) 利用可能なメールアドレスの準備

Teams の登録には、参加者本人が受信できるメールアドレスが必要です。メールアドレスをお持ちでない場合は、フリーメール（Gmail, Yahoo!メール等）を取得してください。

ドメイン指定受信をしている場合は、「@meio-u.ac.jp」及び「@mail.meio-u.ac.jp」並びに「@email.teams.microsoft.com」からのメールが受信できるようにあらかじめ設定してください。

**出願書類の「入学志願票」の「現住所」欄にメールアドレスを必ず記入してください。**

### (4) Teams のダウンロードについて

試験日 1 週間前(下記(5)参照)までに、Teams をダウンロード(無料)、アカウントを取得し、Teams へログインの上、当ツールの機能等を確認してください。

Teams は、次のサイトからダウンロードできます。**アカウント取得する際は、必ず入学志願票に記入するメールアドレスを用いてください。**

なお、定期的にソフトウェアアップデートが実施されますので、試験日前日に teams を起動して、正常に起動するか確認してください。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/microsoft-teams/download-app>

### (5) Teams からのチーム登録メールの受信及びチーム機能の確認

志願者からの出願書類を受理した後、受験票を志願者に送付する日を目処に（試験日の 1 週間程度前）、Teams のチーム機能により「名城大学大学院国際文化研究科(D)入試」の名称で志願者個別の「チーム」を作成し、各志願者を当チームに登録します（志願者のメールアドレスを登録します）。登録後、Teams から志願者へ「チームに追加された」旨のメールが送信されますので、Teams へログインし事前確認してください。

[Teams からの受信メール(イメージ画像)]



#### (6) Teams 通信テスト

受験にあたっては、試験前に通信テストを必須とします。希望日時を入試・広報課に連絡の上、試験当日と同じ環境のもとで通信テストを実施してください。なお、追試験受験は、通信テストの有無を相談の上決定します。

10月試験：令和5(2023)年10月13日(金)までに実施すること。

2月試験：令和6(2024)年1月26日(金)までに実施すること。

### 8. 試験期日及び試験会場等

#### (1) 試験期日

試験区分	試験日	試験時間	試験科目等	摘要
10月試験	令和5(2023)年10月15日(日)	9:30 ~ 11:00	外国語	一般選抜及び社会人の受験者
	※台風による予備日 令和5(2023)年10月22日(日)	11:20 ~ 12:50	小論文	社会人及び外国人留学生受験者
	※追試験(詳細12ページ) 令和5(2023)年10月28日(土)	14:00 ~	口述試験	全 員
2月試験	令和6(2024)年2月3日(土)	9:30 ~ 11:00	外国語	一般選抜及び社会人の受験者
	※追試験(詳細12ページ) 令和6(2024)年2月17日(土)	11:20 ~ 12:50	小論文	社会人及び外国人留学生受験者
		14:00 ~	口述試験	全 員

※志願状況によっては、試験時間を繰り上げることがあります。

(2) 試験会場

名桜大学内 ※受験生は9時までに試験会場に集合してください。

○試験場案内

名護バスターミナルからタクシー利用約7分

【オンラインでの受験者】

オンラインでの受験の場合は、試験中に第三者が立ち入らない静かな環境を受験者各自で用意してください。

※貸会議室や宿泊施設等の商業施設を利用することも可能ですが、利用の可否等については受験者自身で確認してください。施設借用にかかる費用は受験者の負担となります。

9. 試験当日の Teams 接続、出題・答案提出方法

オンライン受験者の試験当日の手順は次のとおりです。

(1) Teams への接続

試験当日、最初の筆記試験科目開始時間の30分程度前にPC及びTeamsを起動してください。

筆記試験については、開始時間10分前までにTeamsに接続してください。

口述試験については、受験票送付時に各志願者の「口述試験連絡票」を同封しますので、示された時間にTeamsに接続してください。

接続後は、試験監督の指示に従ってください。

(2) 筆記試験出題方法及び解答方法

筆記試験の各試験問題(PDFファイル)及び解答用紙(Wordファイル)は、Teams上で送信・出題します。試験監督の指示に従って操作してください。

解答は、受信した解答用紙(Wordファイル)にデータ入力してください。その際、各自で下書き用紙を準備し、使用することを認めます。

(3) 筆記試験答案提出方法

筆記試験終了後、答案は、Teams上でデータ提出します。試験監督の指示に従って操作してください。

10. 受験上の諸注意

【試験会場での受験者】

(1) 試験当日は試験開始10分前までに入室すること。なお、試験開始後30分を経過してもなお試験会場への入室がない場合は、受験を認めない。

(2) 受験票は必ず持参し、机等の上に置くこと(忘れた場合は、監督者にその旨申し出ること)。

(3) 筆記用具は鉛筆、ペン、消しゴム及び鉛筆削りとする。なお、試験場に時計を持ち込む場合は、計時機能だけのものとする。

(4) 携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止し、計時機能としても使用を認めない(試験前には必ず電源を切ること)。

(5) 試験中に質問がある場合は、試験監督に知らせ、指示に従うこと。

(6) 上記(1)の受験者入室終了時刻から試験終了までは、試験室から退室できません。体調不

良、トイレ等により、やむを得ず退室を希望する場合には、試験監督に知らせ、その指示に従ってください。

- (7) 答案は、解答の如何にかかわらず必ず提出すること。
- (8) 昼食は各自で準備すること。

#### 【オンラインでの受験者】

- (1) 受験者から試験前の連絡なく、筆記試験開始時間から 30 分経過してもなおオンライン接続がない場合は、受験を認めない。また、面接試験における Teams 接続時間から 5 分経過してもなおオンライン接続がない場合は、受験を認めない。(次項「11. 通信トラブル等の対応」参照)
- (2) 受験票は必ず持参すること。各試験開始前にウェブカメラにより確認する。試験中は、机等の上に置くこと(忘れた場合は、監督者にその旨申し出ること)。
- (3) 筆記試験における下書き用の筆記用具は鉛筆、ペン、消しゴム及び鉛筆削りとする。なお、試験場に時計を持ち込む場合は、計時機能だけのものとする。
- (4) オンライン通信トラブル時を除き、携帯電話・スマートフォン等の使用を禁止し、時計機能としても使用を認めない。ただし、オンライン通信トラブルの発生時に備え、電源を入れておくこととするが、大学以外からの電話・メール等の着信があっても応答しないこと。試験開始前にウェブカメラにより確認します。試験中は、机等の上に置くこと。(次項「11. 通信トラブル等の対応」参照)。
- (5) 試験中に質問がある場合は、試験監督に知らせ、指示に従うこと。
- (6) オンライン通信接続開始時刻から試験終了までは、受験している場所(部屋等)から退室できません。体調不良、トイレ等により、やむを得ず退席を希望する場合には、試験監督に知らせ、その指示に従ってください。
- (7) 答案は、解答の如何にかかわらず必ず提出すること。
- (8) 不正行為が確認された場合は、受験は無効となります。特に、オンライン試験中においては、意図的にオンライン通信を切断する等、カンニング等の不正の疑いがある行為が認められた場合、試験監督が確認することがあります。
- (9) 試験に関する諸注意事項等の詳細は、受験票送付時に通知します。

#### 11. 通信トラブル等の対応

オンライン試験において、通信トラブル等が発生した場合は、次のように対応します。

##### 〈試験開始前〉

受験者から名桜大学 教務部 入試・広報課(以下、「入試・広報課」)に電話連絡してください。

TEL: 0980-51-1056

##### 〈筆記試験中〉

入試・広報課から電話連絡しますので、落ち着いてお待ちください。

通信トラブル等が即座に回復した場合は、試験再開します。中断時間の措置、答案の提出等、試験監督の指示に従ってください。

即座に回復しない場合は、当該筆記試験科目については追試験対象者とするので、試験監督の指示に従ってください。

〈口述試験中〉

入試・広報課から電話連絡しますので、落ち着いてお待ちください。

通信トラブル等が即座に回復した場合は、試験再開します。中断時間の措置については、監督者の指示に従ってください。

即座に回復しない場合は、当日予定している最後の受験者の後に繰り下げて、再試験を実施しますので、試験監督の指示に従ってください。

## 12. 再試験

再試験は、オンラインによる口述試験実施時の通信トラブル等があった場合の配慮として実施します。原則として、試験監督が必要と判断した場合に再試験の対象とします。

### (1) 再試験の対象者

次のア～エを再試験の対象者とします。

ア：試験前の通信チェックでトラブルが解決できなかった場合

イ：オンラインによる口述試験の途中で通信量不足等により通信速度が低下した、あるいは通信が切断した場合

ウ：オンラインによる口述試験の途中で音声・映像の途切れや切断があり、試験に支障をきたしたと試験監督が判断した場合

エ：その他、試験監督・受験者双方で確認し、再試験の対象と試験監督が判断した場合

### (2) 再試験の実施方法

次のア及びイのとおり実施します。

ア：再試験は原則として同日に行います。当該受験者の試験時間を変更（繰り下げ）して実施することを基本とし、再試験対象者数等の状況によっては別日を設けることがある。

イ：再試験の再開は、中断した時点から再開することとし、時間については、中断するまでに要した時間を含め、口述試験時間の範囲内とする。

(3) 再試験の再試験は原則として実施しません。再試験で通信トラブル等が発生した場合は、入試・広報課から電話連絡しますので、指示に従ってください。

## 13. 追試験

追試験は、オンラインによる筆記試験実施時の通信トラブル等があった場合の配慮として実施します。原則として、試験監督が必要と判断した場合に追試験の対象とします。

また、疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合の配慮として実施します。原則として、受験者からの申請及び証明できる書類（診断書等）の提出により追試験の対象とします。

### (1) 追試験の対象者

①オンラインによる筆記試験実施時の通信トラブル等があった場合

次のア～エを追試験の対象者とします。

ア：試験前の通信チェックでトラブルが解決できなかった場合

イ：オンラインによる筆記試験の途中で通信量不足等により通信速度が低下した、ある

いは通信が切断した場合

ウ：オンラインによる筆記試験の途中で音声・映像の途切れや切断があり、試験に支障をきたしたと試験監督が判断した場合

エ：その他、試験監督・受験者双方で確認し、追試験の対象と試験監督が判断した場合

②疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合

次のア及びイを追試験の対象者とします。

ア：疾病（インフルエンザ・ノロウイルス・新型コロナウイルス・風邪等を含む）・負傷により試験を受験できない者で、それを証明する医師の診断書の提出があった場合

イ：その他やむを得ない事由（両親等の危篤・死亡、自宅の火災、自然災害等による通信トラブル、保健所等から健康観察や外出自粛を要請されている※等）により試験を受験できない者

(2) 追試験の試験期日

10月試験：令和5(2023)年10月28日(土)

2月試験：令和6(2024)年2月17日(土)

試験時間等は対象者確定後、連絡します

(3) 試験内容

本試験とは異なる試験問題を用意し実施します。

(4) 追試験の受験申請方法等

追試験対象者①については、申請不要です。

追試験対象者②については、15ページの別表「追試験受験申請の受付及び許可手続」のとおり申請してください。

(5) 追試験の追試験は原則として実施しません。追試験時に通信トラブルがあった場合は、入試・広報課から電話連絡しますので、指示に従ってください。

14. 合格発表及び入学手続書類の交付

合否結果の通知を大学ウェブサイト上にて行います。合格者は、入学手続システムで手続を行っていただきます。(注) 電話等による合否結果の問い合わせには一切応じません。

10月試験：令和5(2023)年11月1日(水)

2月試験：令和6(2024)年2月28日(水)

15. 入学手続

入学手続期間

10月試験：令和5(2023)年11月2日(木)～11月9日(木)

2月試験：令和6(2024)年3月1日(金)～3月8日(金)

## 16. 社会人学生の履修の方法

### (1) 大学院設置基準第 14 条の特例について

入学後も社会人として在職のまま就学する者に対し、社会人として職務の遂行と本研究科での履修が両立するよう大学院設置基準第 14 条の特例（大学院の課程においては、教育上特例の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる）を実施し、授業科目の夜間、土曜日・日曜日の開講により就学上の便宜を図ります。また、研究指導は、昼間に加えて夜間、土曜日・日曜日、夏季・冬季・春季の休業期間等に行います。履修計画については、指導教員の指導のもとに作成することになります。

### (2) 長期履修制度について

「職業(定職)を有している等の事情」のある学生を対象として、標準の修業年限 3 年を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修して課程を修了することができる制度があります。この制度による授業料は、標準の修業年限 3 年間分の授業料総額を計画的に履修することを認められた一定期間の年数で分割して納めることになります。長期履修期間は 6 年の修業年限を超えることはできません。長期履修制度を利用したい学生は、入学後の指定の期間内に申請してください。

#### 出願に関する問い合わせ先

名桜大学 教務部 入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

T E L : 0980-51-1056

F A X : 0980-54-2429

E-mail : nyushisodan@meio-u.ac.jp



別表 「追試験受験申請の受付及び許可手続」 ※対象：「②疾病等により受験予定だった試験を受験できなかった場合」の該当者

申請受付時間	<p>・本試験前日 9：00 ～ 17：00</p> <p>・試験日当日 8：30 ～ 17：00</p>	
受験者の申請方法	<p>受験者は、追試験受験を申請する場合は、入試・広報課に<b>追試験受験申請する旨を電話で連絡</b>します。</p>	
	<p>A：申請受付時間内に本人又は代理人が入試・広報課に大学発行の「受験票」（注1）と「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由を証明できる書類（注3）」を持参し、「追試験受験申請書」により申請してください。</p> <p>※持参する場合は、事前にお問い合わせください。</p>	<p>B：申請受付時間内に本人又は代理人が入試・広報課に来られない場合は、申請受付時間内に疾病・負傷の状況、その他やむを得ない事由等を電話連絡し、申請手続を確認してください。</p>
申請事由の審査	<p>【申請方法Aの場合】</p> <p>「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由が確認できる証明書等」（注3）により審査します。</p>	<p>【申請方法Bの場合】</p> <p>大学側で、受験者本人の氏名等受験票の記載事項及び申請事由等を電話で聴取、「追試験受験申請の確認メモ」に記入し、直ちに入学志願者名簿等により、受験者であることを確認した後、<b>本人又は代理人に受診状況及び治療期間、その他事由の状況を確認し、審査</b>します。</p> <p>※「診断書（治療期間が明記されたもの）」（注2）もしくは「申請事由が確認できる証明書等」（注3）の提出を求める（下記のとおり）。</p> <p>この場合、申請事由等は「追試験受験申請の確認メモ」に基づくため、「追試験受験申請書」の提出は必要ありません。</p>
受験許可単位	筆記試験、口述試験	
追試験受験者の登録及び受験許可書の交付	<p>【申請方法Aの場合】</p> <p>審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を本人又は代理人に交付します。</p>	<p>【申請方法Bの場合】</p> <p>本人又は代理人が「受験票」と「診断書（治療期間が明記されたもの）」、もしくは「申請事由が確認できる証明書等」を<b>当該試験日翌平日の正午まで</b>に、次のア、イのいずれかの方法で入試・広報課に提出した後、審査結果に基づき、「追試験受験許可書」等を交付します。（期日までの提出が困難な場合はご相談ください）</p> <p>ア：FAX送信 イ：撮影画像を電子メールで送信</p> <p>なお、これらの書類は、後日原本等を提出（持参/郵送）することを原則とします。</p>

（注1）「受験票」は本学でコピーした後、本人又は代理人に返却します。

（注2）診断書の治療期間が追試験実施日にわたっている場合には、本人又は代理人に医師の同意があることを確認した上で追試験の受験を許可します。

（注3）申請事由を証明する書類が発行されない、時間を要する等の場合、ご相談ください。

## 学費等納入金

合格者に対しては「合格通知書」と併せて「入学手続書類等」を送付します。所定の期間までに入学手続と学費等の納入を行い、提出書類は本学入試・広報課へ郵送又は窓口へ提出してください。入学手続期間については、2 ページで確認してください。

### 1. 学費等納入金

国際文化研究科			国際地域文化専攻（博士後期課程）	
			地域内	地域外
学 費	入学金		125,000 円	250,000 円
	授業料	前学期	267,900 円	267,900 円
		後学期	267,900 円	267,900 円
諸経費	後援会費	入学手続時	30,000 円	30,000 円
	学生教育研究・ 災害傷害保険	入学手続時	2,600 円	2,600 円
	学研災付帯 賠償責任保険	入学手続時	1,020 円	1,020 円
合 計		初年度納入総額	694,420 円	819,420 円
初年度納入総額内訳		入学手続時納入金	426,520 円	551,520 円
		後学期納入金	267,900 円	267,900 円

※諸経費は、入学手続時に3年間分を納入します。

※学研災付帯賠償責任保険については、希望者のみ必要に応じ随時加入できます。

### 2. 地域内・地域外の入学金について

入学金については、志願票に記載されている事項に基づき、以下のとおり取り扱うこととなります。

(1)「地域内」とは以下の者のことを指し、入学金が「125,000 円」となります。

①入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄本島北部 12 市町村に所在していること。

②入学する者の住所が沖縄本島北部 12 市町村にあり、令和 5(2023)年 3 月 31 日以前から 1 年以上継続して在住していること。※

③入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄本島北部 12 市町村にあり、令和 5(2023)年 3 月 31 日以前から 1 年以上継続して在住していること。※

※令和 5(2023)年 3 月 31 日時点で既に 1 年以上の継続在住期間があることを指しています。

<沖縄本島北部 12 市町村>

沖縄県の名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村のことを指します。

(2)上記①～③以外の者は、「地域外」となり、入学金が「250,000 円」となります。

(3)上記の(1)に該当する場合は、入学手続時に以下のものを提出していただきます。

入学金 適用区分	摘要	入学金確定に係る書類 (入学手続き時に提出)	備考
地域内①	入学する者の卒業した出身高等学校が沖縄本島北部12市町村に所在していること。	提出の必要はありません。	
地域内②	入学する者の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和5(2023)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。	住民票抄本	
地域内③	入学する者の保護者、配偶者又は一親等の親族の住所が沖縄本島北部12市町村にあり、令和5(2023)年3月31日以前から1年以上継続して在住していること。	【ア・イのいずれかを提出】 ア：住民票謄本 イ：住民票抄本と戸籍謄本	■配偶者又は一親等の親族と同一世帯を成している場合は左記アの書類を提出してください。 ■配偶者又は一親等の親族と異なる世帯を成している場合は左記イの書類を提出してください。
地域外	上記に該当しない者	提出の必要はありません。	

入学金に変更が生じた場合は、入学金の追加納入請求又は入学金の一部返還の措置を取ります。

#### (4)本学卒業生の入学金について

本学卒業生の入学金は、大学院学則第44条（入学金及び授業料等）の規定に基づき、「地域内」の半額とします。

### 3. 外国人留学生の入学金及び授業料について

外国人留学生の入学金及び授業料は、本学の規程に基づき以下のとおり取り扱うことになります。

(1)外国人留学生の入学金は、地域外の半額となります。

(2)外国人留学生は入学年度において、一律に授業料の半額を減免することができます。授業料減免は入学年次の「前学期」から適用されます。

### 4. 学費等納入金の納入方法

学費等納入金は、指定の振込用紙（合格通知書に同封）により、期限までに納入してください。

### 5. 学費等納入金の返還について

学費等納入金を納入した者が、令和6(2024)年3月22日(金)までに本学への入学を辞退した場合は、入学金を除く学費及び諸経費を返還します。学費返還手続については、合格通知書と同封の入学手続要項に綴じられた「入学辞退届」と「学費返還願」の提出が必要となります。

### 6. 入学後の奨学金制度その他について

経済的な負担軽減を図るため、大学院生を対象に奨学金制度や研究支援補助金制度を整備しています。

# 授業科目の内容等

国際文化研究科 国際地域文化専攻（博士後期課程）

## 【 共通科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
国際地域文化総合演習Ⅰ	2	波照間永吉 山里 純一 赤嶺 守 住江 淳司 高嶺 司 嘉納 英明 渡慶次正則 小番 達 小嶋 洋輔 照屋 理 屋良健一郎 坪井 祐司 メーガン クックルマン	本授業は、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程における研究レベルへの導入的な役割も果たす。すなわち、学生は自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に答えながら、自らの研究の方向性を確認しテーマを深化することになる。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。
国際地域文化総合演習Ⅱ	2	波照間永吉 山里 純一 赤嶺 守 住江 淳司 高嶺 司 嘉納 英明 渡慶次正則 小番 達 小嶋 洋輔 照屋 理 屋良健一郎 坪井 祐司 メーガン クックルマン	本授業は、国際地域文化総合演習Ⅰと同様、研究指導教員及び研究指導補助教員全員が参加し、学生の発表に対して異なる研究分野からの視点を導入することで学生に多様な視点から自らの課題を検討する機会を与え、環太平洋を中心とする地域文化について理解を深めることを目的とする。同時に博士後期課程2年次学生が、1年の研究期間を経た後で自らの課題について発表するとともに、異なる研究分野の専門家からのコメントや質問に答えながら、自らの研究テーマのさらなる深化を目指すものである。教員は、総合演習に参加し、学生を中心とした討論を喚起することで、学生が自らの課題を総合的に把握することを支援する。

【 専門科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
琉球・沖縄文化特論	2	波照間 永吉	<p>琉球語を母語とする奄美・沖縄・宮古・八重山地域は“琉球文化圏”と呼ばれ、歴史的に、日本や中国、東南アジアなど周辺諸国との交流によって、個性的な文化を育んできた。例えば、この地域には、ニライカナイ（海の彼方の万物の淵源地）という海上他界の観念があるが、同時に、オボツカグラなどの天上他界観もある。さらには地下他界観を有する地域もあり、現実的にはこれらが重層しているといえる。これらの他界観を元に御嶽信仰と呼ばれる固有信仰が発達しているわけであるが、これらの他界観と固有信仰・民俗文化がどのように展開しているかを見定めることは、琉球・沖縄文化と日本および周辺地域の文化との比較研究のために不可欠なことである。本講座では、これら琉球文化圏で創造・享受されてきた文学（首里王府編『おもろさうし』〈1531～1623〉など）を素材として、この地域の人々が有する他界観・神観念などの民俗文化と想念世界について考えていく。</p>
琉球文学特論	2	照屋 理	<p>琉球とは、かつて琉球国があった時代とその地域、琉球文学とは、基本的に琉球国時代に琉球国内で生まれ、育まれた文学を意味する。具体的に挙げると、オモロ（『おもろさうし』）に代表される呪術文学、奄美・沖縄・宮古・八重山地域で歌い継がれている古謡や琉歌に代表される叙事・抒情文学、そして組踊に代表される劇文学等である。</p> <p>本講義では、それらの文学領域の中でも、特に『おもろさうし』以外の呪術文学（奄美のタハブエ、ナガレ歌、沖縄のミセセル、オタカベ、宮古のカンフツ、タービ、八重山のカンフツ、ニガイフツ等）および叙事・抒情文学、そして劇文学に焦点を当てて追究する。なお、受講生には主体性を求める。</p>
琉球歴史学特論	2	屋良 健一郎	<p>この講義では前近代の琉球の歴史を、史料を読み解きながら学んでいく。特に日本との外交や文化交流に関わる史料を読むことで、琉球と日本・薩摩との関係がどのような歴史をたどったのかを考察することとする。琉球の歴史を知る上で重要な薩摩の歴史についても積極的に扱う。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
南島民俗文化特論	2	山里 純一	南島、主に琉球諸島の民俗文化について、まじない、星と風、信仰習俗などを主たるテーマとして取り上げる。南島特有の精神風土に根ざしたまじない習俗について、文献資料の発掘とフィールドワークの成果を活かし、中国・日本との比較も視野に入れながら考察する。また南島の地理的環境がもたらす天文・自然と人々の暮らしとの関係性について、さらに中国・日本などの外来文化が受容され独自の展開を見せる民俗文化についても考察する。
日本古典文学特論	2	小番 達	本講義では『平家物語』の成立をめぐる問題について考える。作品の成立を考えるには、いわゆる5W1Hの各要素が対象となるが、ここでは異本本文の創作・編集動機（なぜ）、そして成立過程（どのように）の要素を基軸に考えてゆく。『平家物語』をはじめとする軍記文学にあっては、歴大な異本（諸本）を有することがその特徴の一つになっている。それらの異本を総体的に捉えることは難しいため、一異本をキーテキストとして考察対象に定め、そのテキストをめぐって、先行する『平家物語』の他の異本本文や他の軍記文学本文、さらに外部文献—先行する文学作品、歴史資料（記録・史書等）、思想関連資料（経典・寺社縁起等）等々の直接的あるいは間接的な受容の様態を具体的に解き明かしてゆく。
日本近代文学特論	2	小嶋 洋輔	日本近現代文学、とくに第二次世界大戦後の文学における「代表作」（本講義では短篇＝芥川賞受賞作中心）を取り上げ、その「研究方法」について学ぶ。とくに、作品が生成された背景を知る「方法」及び、作品の一文字一文字を読む「方法」を知る。小説作品とは書かれた同時代社会の問題が色濃く表れているものであり、社会制度の変遷を小説から読み解くこともその目的とする。
中国琉球関係史特論	2	赤嶺 守	環東シナ海における地域間ネットワークといった広域的な問題を意識しながら、琉球の歴史的特質をさぐる。前近代的な課題を授業の対象とする。中琉関係史研究を通して地域研究の多様性、地域研究の動向を把握し、地域研究の課題と研究方法をさぐる。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
20世紀アメリカ文学特論	2	Meghan Kuckelman	This course will focus broadly on 20th Century American Modernism, defined very loosely as 1910-1945. Poetry and fiction will be considered alongside theoretical texts from both the early and later century. In addition to the “high” Modernist writing of Eliot, Williams, and Pound, special attention will be paid to the Harlem Renaissance and the avant-garde texts of Gertrude Stein and Djuna Barnes. The value of reading, studying, and teaching such texts will also be considered throughout, through the lens of Martha Nussbaum’s “The Narrative Imagination.”
中南米地域文化特論	2	住江 淳司	ボーダーレスともいわれる現代の国際移動は、それぞれ意図された目的とは別に、国境を越えた文化情報の移動をもたらす。そして思わぬ文化的影響が生じることがある。本特論では、ヒトの移動によって生じる中南米地域のホスト社会における異文化接触について考察する。その際、異文化接触による現象である文化変容が、一つの文化の内部で起こる文化の変化であるのに対して、文化触変は外来の文化要素が受容されたときに起こる文化の変化であることに注目する。そして、このような文化のシステムにどのような変動（文化喪失、文化挿入、同化、異化）が起こるかの事例研究を中心に考察する。
東アジア地域文化特論	2	赤嶺 守	本講義は、東アジアにおける国家・政治・文化に関する理解を深めるため、各国・地域が経験してきた国民国家形成および国民国家史の創出に関する比較・検討を行う。本講義は主に中華圏の社会と地域を検討対象とするが、特に台湾や尖閣諸島といった“周縁”的な地域を沖縄との比較の視座から分析することで、周辺からの地域研究とその手法について体得できるようにする。
東南アジア地域文化特論	2	坪井 祐司	人文・社会科学の研究の方法論の多くは、欧米社会の分析を前提に発展してきたものである。一方で、アジアには寒帯から熱帯までさまざまな地域があり、社会のあり方は必ずしも一様ではない。授業では、アジアで唯一の熱帯地域である東南アジアの社会をさまざまな角度から検討することで、既存の学問の方法論そのものについて再検討する。地域横断的な視野をもって書かれた論文をいくつか選んでテーマを設定し、それをもとに議論を行う。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
英語教育特論	2	渡慶次 正則	<p>アジアやヨーロッパ、北米の地域を中心に外国語教育について教育制度、教員養成、教科書、カリキュラム等を比較する。学術論文や、専門書、教科書、公文書のレビューとクラス討議により、諸地域の外国語教育の歴史的かつ文化的な背景から現状、そして今後の外国語教育の展望を理解し、グローバル化の進展に対応するために日本の外国語教育の在り方を探る。</p> <p>特に本講義では英語教育を中心に検証を行う。小学校英語教育の各国・地域の歴史や現状のみならず、根拠となっている臨界期仮説について理解し、小学校英語教育の必要性について議論を深める。さらに、各国・地域の外国語教員養成制度や教育政策を比較する事により、外国語教育の背景となっている歴史的な背景や文化的な背景を理解する。また、各国・地域の教科書を比較する事により特にコミュニケーション能力の育成に対する相違について認識を深める。加えて、TOEFL iBT などにより英語能力を各国・地域間で比較しながら、英語が母語話者だけの言語ではない、新たな英語言語モデルについて理解を深める。</p> <p>新たな視点としては、多言語主義に加えて新たな外国語教育の潮流である複合言語主義(CEFR)について理解し、特定の地域のみならず全世界的な規模で外国語教育を理解し、今後の日本における外国語教育の方向性を提案する事を課題として与える。</p>
現代沖縄教育特論	2	嘉納 英明	<p>日本国内の中でも独特の歴史や文化を育んできた沖縄は、教育の世界でもユニークな歩みを刻み込んできた。特に、米国占領下の 27 年間（1945～1972 年）は、米軍政による沖縄文教・外国語学校、琉球大学という高等教育機関の設立、日本本土では実現しなかった教育税制度の創設、公選制教育委員会制度から推薦制・任命制教育委員会制度への移行、地域の集落公民館における就学前教育（幼稚園）から公立幼稚園への制度化等の史的展開をみせた。これらは沖縄の住民の教育保障、教育自治・民主化運動とも連動したものである。各事象に関する一次資料と関係論考の分析を通して、個別具体的に事象のもつ意味を明らかにしながら、現代の沖縄・日本の教育の在り方について考察を深める。</p>



授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
アジア太平洋国際関係特論	2	高嶺 司	<p>本特論は、急速な経済成長と科学技術力の進歩を基にグローバル社会における存在感を飛躍的に高めているアジア太平洋地域の国際関係を考察する。具体的には、日本、アメリカ、ロシア、カナダ、中国、韓国、台湾、北朝鮮、オーストラリア、ニュージーランド及びASEAN 諸国などによって形成されるダイナミックかつ複雑なアジア太平洋地域の国際関係について、批判的に分析する。特に、現在この地域において顕著な諸問題（外交、安全保障、通商、人権、民主化、環境破壊、貧困、開発、エネルギー、テロリズム等）の詳細なケーススタディーを通して、その背景と要因を的確に把握するための考察を重ねる。さらに、これらアジア太平洋地域の諸問題を、国際関係理論を応用して科学的な分析を試みることにより、論理的な解決方法を検討することを学ぶ。最終的には、受講生が、社会や政府にとって有益かつ実施可能な政策提言を行えるようになることを目標とする。</p>

【 研究指導科目 】

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅰ	2	波照間 永吉	<p>琉球・沖縄文学に関する博士論文執筆を指導する。</p> <p>特別演習Ⅰでは、研究計画書の作成を中心に指導する。まず先行研究と研究テーマの妥当性について調査・検討する。国内外の先行研究と現在の研究動向を十分に理解しつつ、自らの論文で分析・研究するテーマ及び研究方法の独創性の検討・確認を行う。</p>
特別演習Ⅰ	2	山里 純一	<p>南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆を指導する。</p> <p>特別演習Ⅰでは、問題関心および研究方法・計画について検討し、博士論文の研究テーマ設定に向けた研究発表を行い、適切な研究テーマを決定する。</p>
特別演習Ⅰ	2	赤嶺 守	<p>中国・琉球関係史に関する博士論文執筆に向けて、先行研究に対する評価及び批判的考察を試み、併せてプロットの構築、独創性について検討する。</p>
特別演習Ⅰ	2	住江 淳司	<p>中南米地域文化に関する博士論文執筆を指導する。</p> <p>特別演習Ⅰでは、関連文献の輪読、先行研究の理解を通じて研究史の作成の準備を行う。そして研究計画書の作成を中心にスケルトンを完成させる。それには国内外の先行研究と現在の研究動向を十分に理解しつつ、自らの論文では独創性の検討・確認を行う。</p>
特別演習Ⅰ	2	高嶺 司	<p>アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、研究テーマを設定し、研究の目的、独創性、学術的貢献、及び具体的な研究方法やタイムラインについて検討する。</p>
特別演習Ⅰ	2	嘉納 英明	<p>学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。</p> <p>研究分野、テーマに関する先行研究や学会の研究動向に関する報告及び議論を通して、学生が主体的に研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにし、研究領域や研究方法を確定する。</p>
特別演習Ⅰ	2	渡慶次 正則	<p>インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文執筆を指導する。</p> <p>博士論文のテーマ設定や焦点化、調査方法や研究倫理や第2言語習得論や言語能力評価、英語教授法、早期英語教育、英語教員養成などの関連文献を渉猟し、リサーチ・プロポーザルを行う。</p>
特別演習Ⅱ	2	波照間 永吉	<p>琉球文学・沖縄文化に関する博士論文執筆に向けて、幅広い文献収集、先行研究及び1次資料の厳密な読み込みと分析、指導教員・指導補助教員との討論、研究の進捗状況の確認と修正、文献リストの作成、基本的理論枠の検討、論文全体の概略の作成等を通して中間発表(第1回)に向けた基礎的な準備を行う。</p>

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅱ	2	山里 純一	南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆を指導する。 特別演習Ⅱでは、研究テーマに関連する先行研究の論点・問題点および研究史の整理を目的とした発表を行う。先行研究について完全に把握し、研究史を正確に把握することを目標とする。
特別演習Ⅱ	2	赤嶺 守	中国・琉球関係史に関する博士論文執筆に向けて、収集した関連史料の精読をおこない、引用史料としての立証性について検討する。
特別演習Ⅱ	2	住江 淳司	中南米地域文化に関する博士論文執筆を指導する。 特別演習Ⅰの学習内容の発展として、博士論文のテーマ設定を進める。それからテーマに沿った文献の蒐集・精読を行い、問題意識を明確にする。指導教員・指導補助教員との討論・研究の進捗状況の確認と修正、文献リストの作成を通して、中間発表（第1回）に向けた基礎的な準備を行う。
特別演習Ⅱ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、先行研究の批判的検討と整理を行い、研究の中心となる理論的（分析）アプローチの構築を試みる。
特別演習Ⅱ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。 研究テーマを決定するために、国内外の先行研究と現在の研究動向を理解するために文献探索を行う。あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。特に、序章の中の「研究史」の作成について集中的に指導する。
特別演習Ⅱ	2	渡慶次 正則	インタラクシオンにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文執筆を指導する。 第2言語習得論や言語能力評価、英語教授法、早期英語教育、英語教員養成などの関連文献を渉猟し、「第1回中間発表」の準備を行う。
特別演習Ⅲ	2	波照間 永吉	琉球文学・沖縄文化に関する博士論文執筆に向けて、特別演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、指導教員を中心とした指導による報告・討論、研究理論に基づく1次資料の厳密な分析、多角的な視点からの検討、学会等での報告・発表を行いつつ、論文執筆及び修正を行う。
特別演習Ⅲ	2	山里 純一	南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆を指導する。特別演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、研究テーマに即した文献およびフィールド調査資料の分析・検討を踏まえた研究発表を通して、研究のオリジナリティを高める。
特別演習Ⅲ	2	赤嶺 守	中国・琉球関係史に関する博士論文執筆に向けて、体系的且つ精緻なデータベースの構築と解析をおこない、論考の実証性について検証する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅲ	2	住江 淳司	中南米地域文化に関する博士論文執筆に向けて、特別演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえ、指導教員を中心とした指導による報告・討論、研究理論に基づく1次資料の厳密な分析、多角的な視点からの検討、学会等での報告・発表を行いつつ、論文執筆及び修正を行う。加えて博士論文の全体構想を定め、論文の目的、分析手法、理論展開、結論の妥当性について指導する。
特別演習Ⅲ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析と整理を行う。
特別演習Ⅲ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。 学校と地域の教育に関する博士論文執筆に向けて、研究に必要な1次資料・2次資料の文献探索方法を獲得する。
特別演習Ⅲ	2	渡慶次 正則	インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文執筆を指導する。 リサーチ・クエスチョンに答えるデータを収集し、「調査方法」の章をまとめる。関連文献を渉猟し、文献研究を執筆する研究環境を整える。
特別演習Ⅳ	2	波照間 永吉	琉球文学・沖縄文化に関する博士論文執筆に向けて、博士論文の草稿を提出し、指導教員・副指導教員等によるフィードバックを行う。また、研究に関するセミナーや学会へ積極的に参加する。さらに、学術誌への投稿・掲載を目指し、それに関する指導を行う。
特別演習Ⅳ	2	山里 純一	南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆に向けて、全体的な構想を固めるために発表と検討を行い、学位論文の目次を提示する。
特別演習Ⅳ	2	赤嶺 守	中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に取りかかる。史料やデータベースを駆使した論理の展開の妥当性について検討し、全体の構想の充足を図る。
特別演習Ⅳ	2	住江 淳司	中南米地域文化に関する博士論文執筆に向けて、博士論文の進捗を確認しながら、論文の草稿を提出させ、その内容について指導する。加えて適宜、学会報告、学術論文の投稿等についても準備させる。
特別演習Ⅳ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の各章の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成の再検討と修正を行う。
特別演習Ⅳ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する博士論文の執筆に向けて、研究史の推敲、国内外で収集した資料の分析・検討などを踏まえ、学位論文の構想を検証する。
特別演習Ⅳ	2	渡慶次 正則	インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文執筆を指導する。 収集したデータを先行研究と関連付けながら「調査結果」の章を完成させる。併せて、「文献研究」の章を完成させる。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅴ	2	波照間 永吉	琉球・沖縄文学に関する博士論文執筆に向けて、博士論文草稿について、迅速かつ的確なコメントを行い、必要に応じて指示・修正を行い、博士論文完成に導く。博士論文の一部が独立した論文となり得る場合は、積極的に学術誌へ投稿し掲載を促す。必要に応じて、専攻内の他の研究者の指導を仰ぐ。
特別演習Ⅴ	2	山里 純一	南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆に向けて、各章の執筆と指導、補訂を重ね、骨格を完成させる。
特別演習Ⅴ	2	赤嶺 守	中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に取りかかる。各章における表・グラフの作成を行ない、それと論理の展開における整合性を検討する。
特別演習Ⅴ	2	住江 淳司	中南米地域文化に関する博士論文執筆に向けて、博士論文の完成に至る研究計画の立案について支援する。また、論文全体の構成を検討し、これまで査読付きの学会誌に投稿した論文を博士論文の一部として導入する場合には的確なコメントを行う。また必要に応じて、他の研究者の指導も仰ぐ。
特別演習Ⅴ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の第2草稿の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正を行う。
特別演習Ⅴ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する学位論文の各論の執筆を検討し、推敲を繰り返しながら完成を目指す。
特別演習Ⅴ	2	渡慶次 正則	インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文執筆に向けて、「結論」の章を執筆し、最終的に「博士論文」提出原稿を完成させる。併せて「学位請求論文概要」の提出と「学位請求論文」の提出を行う。
特別演習Ⅵ	2	波照間 永吉	琉球文学・沖縄文化に関する博士論文執筆に向けて、指導教員および副指導教員による厳密な検討・指導を行い、博士論文の最終稿の完成に導く。
特別演習Ⅵ	2	山里 純一	南島地域の民俗文化に関する博士論文執筆に向けて、各章の再検討と補訂を重ね、全体の整合性と論証性を総点検し、学位論文を完成させる。
特別演習Ⅵ	2	赤嶺 守	中国・琉球関係史に関する博士論文を完成させる。論文の構成、体系的実証性、独創性および学術的意義、研究付録の整理等について、最終的な調整・確認をおこなう。
特別演習Ⅵ	2	住江 淳司	中南米地域文化に関する博士論文の完成、最終審査と口頭発表に向けて、中間報告で受けた指摘を踏まえつつ、問題意識、分析手法、理論構成、結論の整合性・妥当性について副指導教員と厳密な検討を行い、博士論文の最終稿の完成に向けて指導する。

授業科目名	単位	担当教員名	講義内容
特別演習Ⅵ	2	高嶺 司	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の最終稿を継続して執筆するとともに、論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認や序論、結論、脚注、参考文献のチェックを行い、書式統一や文章の細部点検と修正を経て博士論文を完成させ提出する。
特別演習Ⅵ	2	嘉納 英明	学校と地域の教育に関する学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。
特別演習Ⅵ	2	渡慶次 正則	インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する博士論文完成に向けて、博士論文審査と最終試験の準備を行う。併せて、博士論文原稿全体を再読し、リサーチ・クエスチョンとの整合性、論文の細部や一貫性、結束、体裁などを確認する。

## 研究指導（博士論文指導）教員一覧

No	研究指導分野	研究指導教員
1	琉球文学に関する研究	教授 <small>はてるま</small> 波照間 <small>えいきち</small> 永吉 ★
2	南島地域の民俗文化に関する研究	教授 <small>やまざと</small> 山里 <small>じゅんいち</small> 純一 ★
3	中国・琉球関係史に関する研究	教授 <small>あかみね</small> 赤嶺 <small>まもる</small> 守 ★
4	中南米地域文化論に関する研究	教授 <small>すみえ</small> 住江 <small>じゅんじ</small> 淳司 ★
5	アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する研究	教授 <small>たかみね</small> 高嶺 <small>つかさ</small> 司
6	学校と地域の教育に関する研究	教授 <small>かのう</small> 嘉納 <small>ひであき</small> 英明
7	インタラクションにおける英語聴解力とプロセスに関する研究	教授 <small>とけし</small> 渡慶次 <small>まさのり</small> 正則 ★

★は令和 8(2026)年 3 月退職予定。他にも異動等により、変更にある場合があります。

令和 6(2024)年度 名桜大学大学院国際文化研究科国際地域文化専攻（博士後期課程）  
学生募集要項

---

<発行>

令和 5(2023)年●月●日

名桜大学教務部入試・広報課

〒905-8585 沖縄県名護市字為又 1220-1

TEL 0980-51-1056 FAX 0980-54-2429

---